TOCO-TON 明科

No.55　R8.1.30 発行
TOCO-TON 指導主事

１　明北小『たてわり班ウォークラリー』児童会交流委員会企画　１月 14 日（水）

児童会交流委員会の企画で、朝の時間に「たてわり班ウォークラリー」が行われました。寒い中でしたが、全校で体育館に集まった後、校舎内に設置された「関所」めがけて縦割り班ごとに出発しました。

それぞれの関所には、学校の校舎に関する問題や、それぞれの学年で行ったことなどについての問題が書かれていたり、“ケンケンパ”や“けん玉”をやったりなど、多様なタイプの問題がありました。１～６年生みんなが笑顔で楽しめる企画となりました。

２　明北小　『３年生が進める音楽集会』　１月 28 日（水）

６先生からスタートした「学年が進める音楽集会」に、３年生もトライしました。他の学年が先頭に立つ姿や、音楽集会での楽しかった体験が、「自分たちもやりたい」という思いにつながったと思います。

ギターとピアノ伴奏で、『パプリカ』を歌いました。めあては『リズムにのって楽しく歌おう♪』です。全員で１回歌った後、３年生アドバイス係から、「リズムをとるときに足を右左に動かして」「もっとノリノリで歌いましょう」「ぼくたちが楽器で盛り上げます」との話があり、手拍子も入れながら元気よく楽しく歌うことができました。

終了時、「全校のみなさんと仲良く楽しくリズム遊び的に楽しめてよかった。」「パプリカをリズムよく歌うことで、より明るく歌えた。」等の感想が出されました。

【３年生のふりかえり】

- 最初に意見を出していたときは、ごちゃごちゃで本当にできるのかなと思ったけれど、どんどん話をしたらできるようになりました。
- 準備の話し合いのときに、全員が納得できる意見にたどりつけた。もっと準備を早くしたり、全員の特技をいかしたりしたい。
- 横にいる２年生の子たちのリズムを見て、足が逆だったら声をかけて、声が小さかったら「もうちょっと声を出してみて」と言えて、係の活動も字がきれいに書けたと思います。
- めあてができたからいいと思った。みんなでつくった音楽集会が成功して嬉しかった。

３　明北小３・４年生合同体育『とびばこ運動』　１月 29 日（木）

５学年担任から、３･４学年担任への声がけで、連学年合同体育を行っています。単元全てを、５学年担任（空き時間）が主となり、３･４年担任は個別指導を行っています。

最初に、全員で協力して、多くの用具を手際よく準備することができました。短時間でいくつもの場づくりができることも、取組のよさだと思います。

子どもたちは「共通の約束やルール」と「めあて」を確認し、様々な段数の場で、自分がやってみたい技に挑戦しました。「もうちょっと“ふみきり”を、はじくようにして。」「“助走”するとき、細かく走るといいよ。」等々、子ども同士のアドバイスもありました。

今回は体育での学びを紹介しましたが、学年を超えた様々な仲間の疑問や考えに触れたり、動きを参考にしたりできる『異学年合同での学び』は、自らの学びの視点を広げ深めるよさがあります。明北小のような小規模校では、少人数で学ぶよさと、異学年合同で学ぶよさのそれぞれを活かしていく工夫をしていくことが有効だと感じました。

４　明北小５年生　『修学旅行に向けて』（５学年だよりから）　１月

修学旅行の２日目に「どこへ行くか」という課題に対して、話し合いが進んでいます。今週の火曜日の段階では「ディズニーランド」「カップヌードルミュージアム」「トンデミ平和島」が上がりました。それぞれに行ってみたい思いがあり、小学校生活で一度しか経験できない修学旅行ですから、どの子も真剣です。話し合いは平行線をたどり、決着がつかなかったため、友だちを納得させるための情報を用意しようという流れになりました。

２日後の木曜日までに準備をすることとなった子どもたちは、空き時間を見付けては資料づくりに没頭していました。選挙活動に向けた準備と並行しながら取り組んだり、自宅にクロームブックを持ち帰って資料を作成したりする子もいました。実際に用意されたプレゼンテーションは、よく考えられており、修学旅行にふさわしい理由を画像と共に紹介していました。実際に説明を受けて「食事がおいしそうだった」「うわ～楽しそう」と呟きが聞こえ、考えを変える子も出てきました。現状では、ディズニーランドに行きたいという意見が多くなっていますが、１人でも別意見ならば、無理強いはせずに、その思いを大切にしながら話しを進めていました。

これまで勤めてきた学校では行き先は確定していたため、明北小のように、子どもたちの思いが色濃く反映される修学旅行は素晴らしいなと思います。行き先も決められていれば、話し合いで揉めることもないでしょう。話し合うからこそ上手くいかないこともあるかもしれません。しかし、こうした経験が人を育てます。学校という小さな社会で学ぶことが、いずれ社会で役に立つことを信じて、子どもたちを見守っていけたらなと考えております。